

第三期特定健康診査等実施計画

リケンテクノス健康保険組合

最終更新日：令和6年12月13日

特定健康診査等実施計画（平成30年度～令和5年度）

背景・現状・基本的な考え方		
No.1	生活習慣関連疾患の一人当たり医療費が3年で800点ほど増加している。疾病別で見ると虚血性心疾患の医療費が特に増加している。	⇒ 重症化を防ぐための、リスク者に対して適切なケアを行う体制を確立する。また、ヘルスリテラシー向上の施策のうち、一人ひとりが健康に対する意識を高めてもらうように環境整備をする。
No.2	疾患別に医療費総額を見た時に、2015、2016年ともに新生物医療費が1位となっており、増加傾向にある。	⇒ がんに対する知識向上のための教育。人間ドック等検診への誘導を積極化する。
No.3	0-9歳台では医療費の44.4%が呼吸器系疾患に費やされている。その割合は年齢を経るにつれ、減少してくるが、20-29歳台までは依然として30%以上が呼吸器系疾患にかかっている。	⇒ インフルエンザ予防接種による事前対策。手洗い、うがい等の励行。
No.4	歯科医療費について、総医療費は横ばいだが、一人当たり医療費がわずかに上昇傾向にある。特に治療にかかる医療費が2014年度と2016年度を比べると、約9.3%増加している。	⇒ 歯科のヘルスリテラシー向上のための施策。
No.5	健診受診者における肥満者割合（BMI≧25）が30%ほど存在し、そこに腹囲リスクがある人を含めると全体の40%が肥満者である。2年連続健診受診者における肥満者の数も2名だけが純増している。	⇒ 肥満者に対するウォーキングキャンペーンや、アプリを活用しグループ化した取り組み等による運動習慣の定着。
No.6	2014年度と2016年度を比較すると、血圧・血糖・脂質リスクの全てにおいて、健診受診者における受診勧奨レベル以上の人数が増加している。	⇒ 各疾患系リスク判定の値が高値にある人について、特に医療機関受診のレセプトがない人に対して、受診勧奨を実施する。
No.7	特定健康診査受診率は2016年度に80%を超え増加傾向にあるが、まだ国の目標値には達していない。特定保健指導実施率は極端な増減を繰り返していて実施率が安定していない。また、実施率自体も目標値に届いていない。	⇒ 特定健診・特定保健指導のプロセス、ストラクチャーの見直しと、コラボヘルス等による受診率・実施率の向上

基本的な考え方（任意）

特定健診・特定保健指導の事業計画

1 事業名 **特定健診**

対応する健康課題番号 **No.7**



事業の概要

対象	対象事業所：全て、性別：男女、年齢：40～74、対象者分類：加入者全員
方法	令和3年度より40歳以上75歳未満の被保険者は定期健診項目を人間ドック並みに変更
体制	-

事業目標

受診率90%の達成							
アウトカム指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
評価	- (アウトカムは設定されていません)						
アウトプット指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
受診券の配布率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
受診率	-%	-%	-%	90%	90%	90%	

*緑色強調表示している箇所は第2期計画書中間見直しによる変更箇所です。

実施計画

H30年度	R1年度	R2年度
・被保険者を通じて、被扶養者の受診状況を確認して受診率向上につなげる（アンケート調査の実施） ・人間ドック等で受診している方のデータ管理の徹底を図る為、医療機関との契約を締結する。	被扶養者に関しては、個別の受診案内封筒を作成する。第二次受付を実施。	継続・中間評価の実施
R3年度	R4年度	R5年度
継続	継続	継続

2 事業名 特定保健指導

対応する健康課題番号 No.7



事業の概要		事業目標						
対象	対象事業所：一部の事業所、性別：男女、年齢：40～65、対象者分類：被保険者	国の目標である55%を達成する						
方法	-	アウトカム指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
体制	-	対象者割合	- %	- %	- %	5 %	10 %	15 %
		アウトプット指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		実施率	1 %	1 %	1 %	55 %	55 %	55 %

※緑色強調表示している箇所は第2期計画書中間見直しによる変更箇所です。

実施計画		
H30年度	R1年度	R2年度
・全事業所へ特定保健指導を実施・未実施事業所平成31年度から実施できるよう体制構築する・生活改善サポート実施（39歳以下）	未実施の事業所や被扶養者にも実施する。	継続
R3年度	R4年度	R5年度
継続	継続	継続

3 事業名 主婦健診

対応する健康課題番号 No.7



事業の概要		事業目標						
対象	対象事業所：全て、性別：女性、年齢：18～（上限なし）、対象者分類：被保険者/被扶養者	女性に魅力的な健診項目を提供することによる、被扶養者を含めた女性の受診率向上						
方法	-	アウトカム指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
体制	-	精密検査受診率	- %	- %	- %	50 %	60 %	70 %
		アウトプット指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		乳がん受診率	65 %	70 %	75 %	75 %	80 %	85 %

※緑色強調表示している箇所は第2期計画書中間見直しによる変更箇所です。

実施計画		
H30年度	R1年度	R2年度
・女性に特徴的な乳がん検診を同時に実施できる健診プランの提供	6月～翌1月末実施。	継続
R3年度	R4年度	R5年度
継続	継続	継続

4 事業名 生活習慣病健診

対応する健康課題番号 No.7



事業の概要		事業目標						
対象	対象事業所：全て、性別：男女、年齢：18～（上限なし）、対象者分類：被保険者	生活習慣病リスクを早期発見し、適切なケアにつなげる						
方法	-	アウトカム指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
体制	-	リスク者割合	- %	- %	- %	60 %	55 %	50 %
		アウトプット指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		実施率	1 %	1 %	1 %	90 %	95 %	100 %

※緑色強調表示している箇所は第2期計画書中間見直しによる変更箇所です。

実施計画		
H30年度	R1年度	R2年度
・事業主と連携して実施	各事業所担当者と連携して実施。	継続
R3年度	R4年度	R5年度
継続	継続	継続

5 事業名 被扶養者の特定健診受診率向上施策

対応する健康課題番号 No.7



事業の概要

対象	対象事業所：全て、性別：男女、年齢：40～74、対象者分類：被扶養者/基準該当者
方法	-
体制	-

事業目標

被扶養者受診率を向上させる							
評価指標	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
アウトカム指標							
リスク者割合	71%	76%	81%	40%	35%	30%	
アウトプット指標							
受診率	-%	-%	-%	85%	88%	90%	

※緑色強調表示している箇所は第2期計画書中間見直しによる変更箇所です。

実施計画

H30年度	R1年度	R2年度
・特定保健指導平成31年度から完全実施できるよう委託先と協議調整する。・被保険者経由で被扶養者かつ健診未受診者へアンケート調査を実施。未受診者のアンケート結果を踏まえ、受診勧奨の実施。・特定健診4～3月実施	個別の宛名封筒の作成。アンケート実施。第二次受診受付実施。	継続
R3年度	R4年度	R5年度
継続	継続	継続

達成しようとする目標／特定健康診査等の対象者数

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定健康診査	計画値						
	※1						
	※2						
特定健康診査実施率	実績値						
	※1						
	※2						
特定保健指導	計画値						
	※1						
	※2						
特定保健指導実施率	実績値						
	※1						
	※2						

※1) 特定健康診査の（実施者数）／（対象者数）

※2) 特定保健指導の（実施者数）／（対象者数）

※3) 特定健康診査の対象となる被扶養者数には、強制被扶養者、任意継続被扶養者、特例退職被扶養者、任意継続被保険者、特例退職被保険者を含めてください。

目標に対する考え方（任意）

実施率向上を目指し、全事業所が受診できる環境体制を優先順位を決め構築する。健保組合が中心となり委託先と事業主実務担当者と連携した受診体制を1年ごとに構築する。遠隔地においては、IICTを活用した受診環境体制を構築する。

特定健康診査等の実施方法（任意）

被扶養者は、実施していないので早急に特定保健指導実施の受診環境体制を構築する。受診者増を目指し従来受診案内通知を1回のみであったが、二次募集として2回目の案内を実施する。

個人情報の保護

-

特定健康診査等実施計画の公表・周知

-

その他（特定健康診査等実施計画の評価及び見直しの内容等）

-